

■第11回学生&企業研究発表会■
(大学コンソーシアムとちぎ)



『烏寶線鉄道唱歌』の解明と 近代後期以降の烏山線沿線地域の変容過程

と き 2014年12月6日
ところ とちぎ産業創造プラザ



足利工業大学 工学部 創生工学科

建築・社会基盤学系 福島二郎研究室 布施和也

1.研究の背景

現在、わが国では、地方都市の衰退が大きな課題！

その衰退に歯止めをかけるための手法・方法論を
模索しながら、各地で種々多様な取り組みを展開
が行われています。

大きな資金投入
に依存しない！

《地方中小都市》

人口流出に伴う財政基盤
の脆弱さが著しい

地域資源を活用した
地域交流の拡大による
観光まちづくりが定着

《鉄道の活用》

恒常的な鉄道ファンの
存在を踏まえて

地域振興に向けた取組み
として注目に値する！

2.研究の目的

昭和初期の鉄道に関する発掘資料！

『地域資源』・『鉄道』をキーワードとして
地方都市の地域活性化に向けた手法検討

本稿では

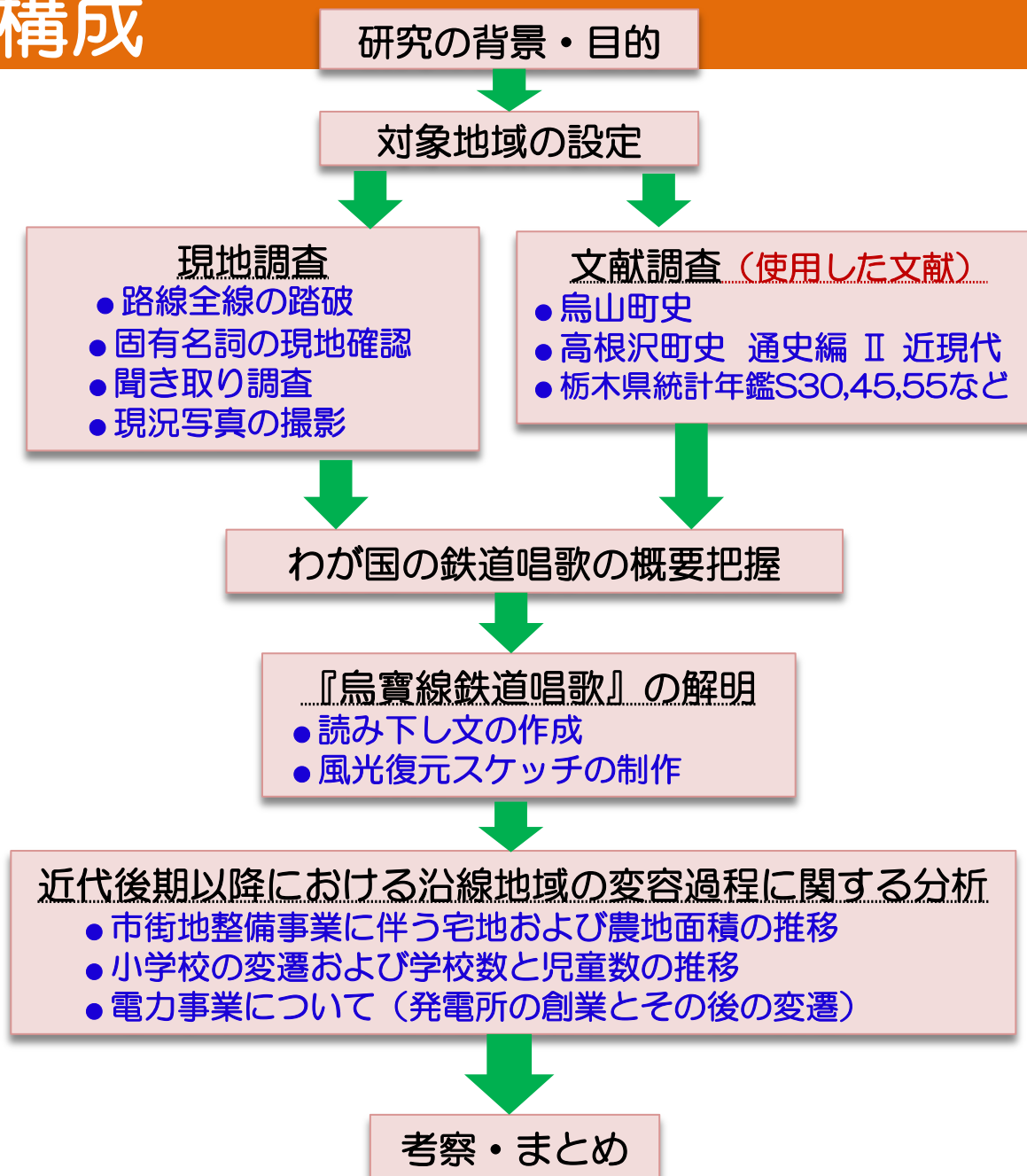
検討のための基礎資料を作成する

①発掘資料『烏寶線鉄道唱歌』の解明と同唱歌が制作されたとされる昭和5年当時の地域様態の復元
→ 当時における地域資源の把握

さらに

②近代後期から現在までのJR烏山線沿線地域の変容過程の分析を通して
→ 当該地域の浮沈様態の把握

3.研究の構成



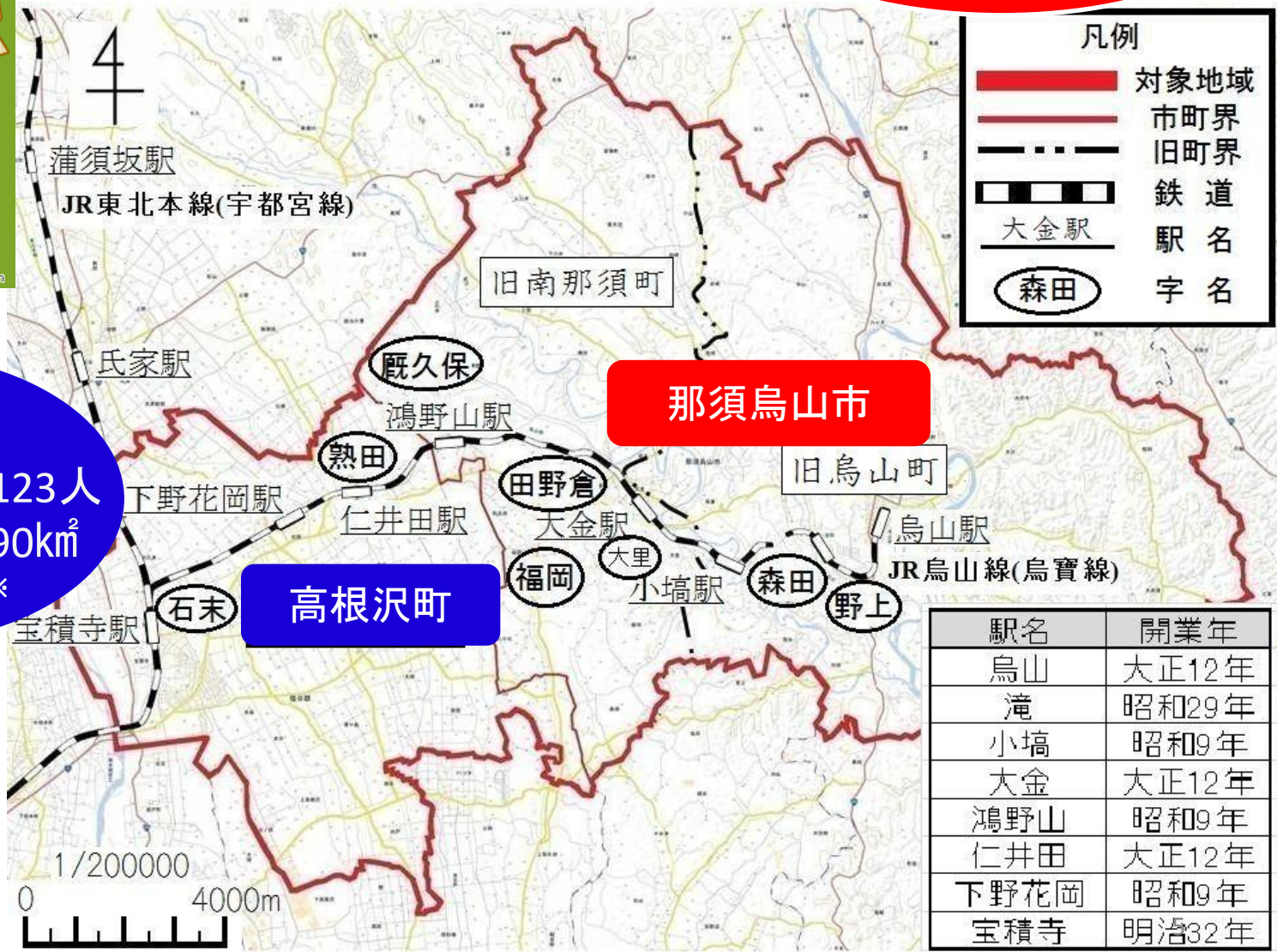
4.対象地域



那須烏山市

- ・人口: 28,541人
- ・面積: 174.42km²

※平成26年12月1日現在※



凡例

- 対象地域
- 市町界
- 旧町界
- 鉄道
- 大金駅
- 駅名
- 森田
- 字名

高根沢町

- ・人口: 30,123人
- ・面積: 70.90km²

※平成26年10月1日現在※

那須烏山市

高根沢町

駅名	開業年
烏山	大正12年
滝	昭和29年
小埴	昭和9年
大金	大正12年
鴻野山	昭和9年
仁井田	大正12年
下野花岡	昭和9年
宝積寺	明治32年

5.わが国の鉄道唱歌の概要把握

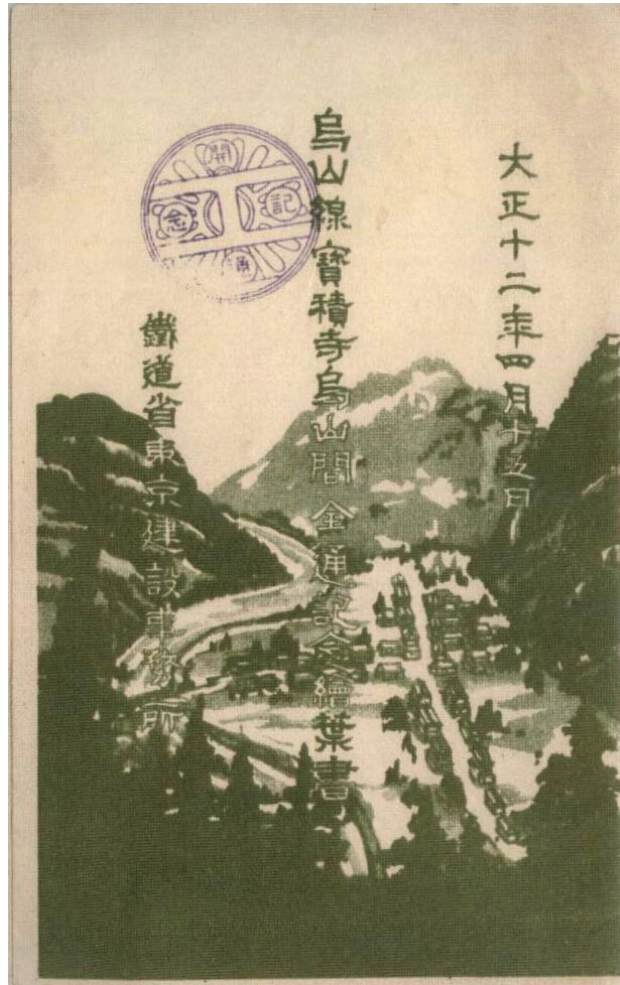


<http://www.geocities.jp/tasii01/uta.html>より転載。

- 「鉄道唱歌」は、1900(明治33)年、大和田建樹(国文学者)が作詞し、三木佐助(書店経営者)が発行。
- 『地理教育鉄道唱歌第一集・東海道編』がその嚆矢。
- 同シリーズが第五集まで発行された。
- 歌詞の中に、沿線地域の地理や歴史、民話や伝説、名産品の紹介などが盛り込まれ、子供から大人まで大いに人気を博したとされる。
- この人気を背景に、鉄道路線の延伸・拡張に伴い、各地の路線の鉄道唱歌がつくられた。

6. 烏山線の開通と烏寶線鉄道唱歌

(1) 烏山線の開通



（「烏山線寶積寺烏山間
全通記念絵葉書」から転載）

鐵道省が発行した烏山線開通記念の絵葉書です。



（開業当時の烏山駅「烏山線寶積寺
烏山間全通記念絵葉書」から転載）



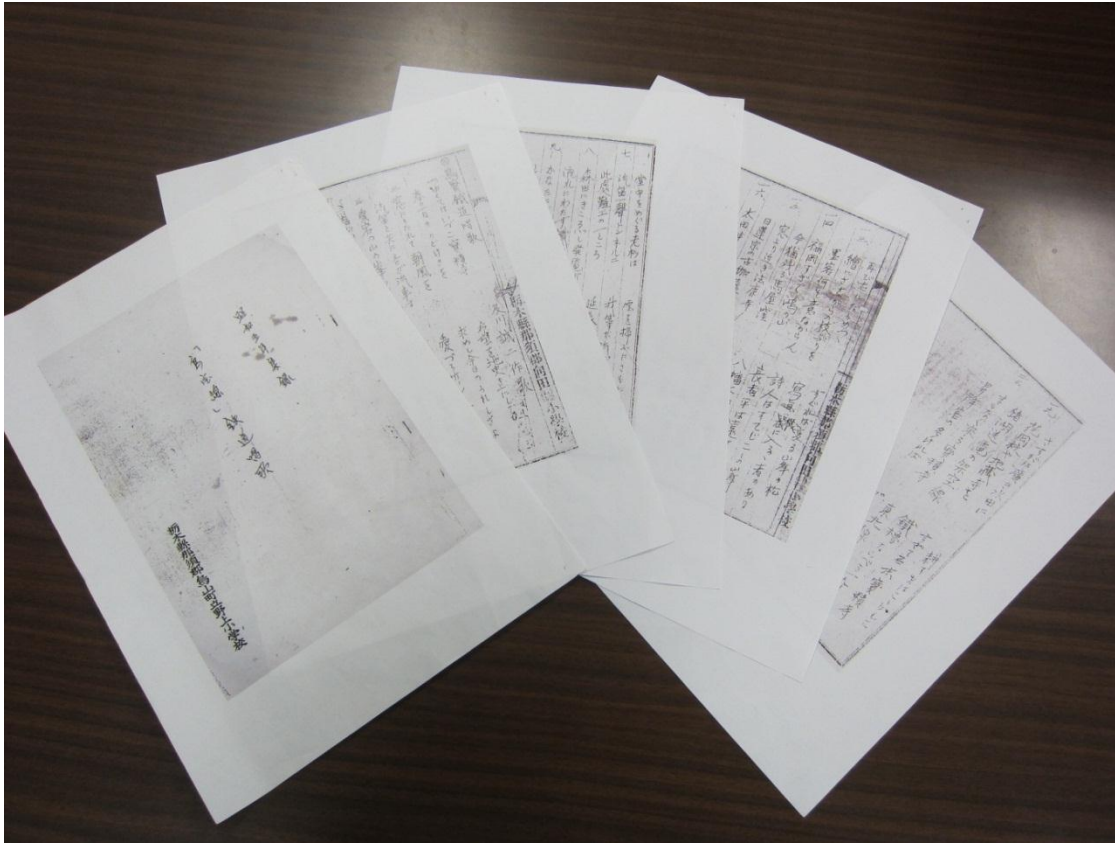
（昭和初期の烏山線：古谷弘子氏提供）

モンペ姿の女学生が写っている昭和戦前期と
思われる沿線風景のスナップで貴重な物です。

- 1923(大正12)年5月1日開業。
- 日本鐵道の寶積寺駅から分岐し、烏山駅まで全長20.4km。開業当初は、熟田・大金を加えた4駅のみ。
- 1934(昭和9)年に下野花岡・鴻野山・小埜、1954(昭和29)年に滝駅が開設され、現在の運用に。

6.烏山線の開通と烏寶線鉄道唱歌

(2) 『烏寶線鉄道唱歌』 について



- この原本は、那須烏山市の知人から入手した5枚のコピーである。
- 本研究に際し、『烏寶線鉄道唱歌』の認知度をはじめその実態について調査しているが、現在のところ詳細は不明。

詠まれた歌詞の解明により、当時の地域固有の地域資源や地域の景観など、地域の魅力情報の認識把握に結びつくと考えています。⁸

7.現地調査

(1)調査の内容

■調査日 2014年8月20日～22日の3日間

■調査員 足利工業大学:布施和也・高橋亮太・岡本竜馬/福島二郎(教員)
鳥山高等学校:池田尚樹・佐藤拓真・鈴木雄太/藤井啓太(教員)

調査項目	■所在地 ■区分(①地名②風景③景観・計勝地④人物⑤建造物⑥その他)
	■分類A(区分①～③:参考文献・資料名)■分類B(区分④:歴史上/近現代)
	■分類C(区分⑤):宗教/教育/産業/交通・通信/土木/その他
	■建造年 ■用途 ■構造形式(木造/RC/鉄構造/煉瓦造/石造/その他)
	■諸元(長さ/幅) ■改築・改修履歴 ■文化財指定等 ■管理者 ■設計者
	■車窓から(見える/見えない) ■調査者所見・特記事項 ■写真(古写真/現在)



7.現地調査

(2) 『烏寶線鉄道唱歌』の全文

作歌者: 及川誠二 (昭和5年集録)			
1	ゆくてはいづこ寶積寺 希望を地史の上にして 春の一日ののどけさを 求めし今日のうれしさよ	2	窓にもたれて朝風を 愛づる折りしも一聲の 汽笛と共に吾が汽車は 烏山をば出でにけり
3	愛宕の山の峯つゞき めぐると見れば虻塚の 宿もいつしかあとに見て 峽を走る心地よさ	4	麦の緑のそが中に 黄金欺く花ありて 言はずとかたる春の香に 思はず胸の踊るなり
5	瀑音高く緑陰に 響くはこれぞ名にし負ふ 瀧の名所と相待ちて 観音堂のあるところ	6	石のきざはし苔むして 慈覚大師開山の 堂宇をめぐる老杉は 雲を掃ふにさもにたり
7	汽笛一聲トンネルに 我等が汽車は入りにけり 此處難工の一ところ 延長實に三町餘	8	森田にきこゑし発電所 小埜をすぎて荒川の 流れにわたす鐵橋に かゝれば音のかまびすし
9	かなたに見ゆる山脈の ふもとにひける一筆の 斜めに染めしうすかすみ 高瀬の景の得がたしや	10	いつしか大里あとにして 鎮守ふりむくひまもなく 大金驛につきにけり 驛夫のこゑもほがらかに
11	化石に名ある小河原や 人に知られし十二口 大和久小倉ほど近し 汽車は驛をばいでにけり	12	田の倉校や安樂寺 窓下に青き荒川を 再び右にながめつゝ すぐれば変る峯の松
13	繪にさながらの枝ぶりを 寫旨機に入るゝ者のあり 墨客何ぞ意なからん 詩人はすてじこしの峯	14	福岡すぎて鴻の山 長者平は遠けれど 今猶残る馬屋窪 八幡太郎に知られけり
15	窓より近き法康寺 一向宗にぞしられぬる 臺新田の三箇寺は 日蓮宗の古伽藍	16	太田神社を右に見て 左に仰ぐ星の宮 文挾校の庭先を すぐれば早やも熟田驛
17	汽車は煙を吐きたてゝ 今ぞ熟田をいでゝ行く 高根沢また花岡は 野州米てふ名も高し	18	廣袤幾重灌漑の 水路蜘蛛手に分れつゝ さすがは廣き水田に 耕すものはこゝかしこ
19	花岡校や地藏寺を すぎて石末寶積寺 猪湖送電の架空線 鐵櫓ならべる一奇觀	20	まもなく来る寶積寺 東北線と交りて 昇降客の多ければ プラットホームは織る如し

7.現地調査

(3)『烏寶線鉄道唱歌』に詠まれた固有名詞

曲番	固有名詞	備考	曲番	固有名詞	備考
1	寶積寺	地名(烏寶線の終点駅。現高根沢町)	31	寫眞機	写真機=カメラ
2	烏山	地名(烏寶線の始発駅。烏山町=現那須烏山市)	32	墨客・詩人	(特定できるか確認中)
3	愛宕の山	愛宕神社・愛宕台公園のある小高い丘	33	こしの峯	30と同じ。峠または町境の意で“越れる”。
4	虻塚	地名(字名)	34	福岡	地名(字名)
5	宿	人家が集まった集落。野上周辺	35	鴻の山	地名(字名)
6	峽	はざま。山と山の間。谷あい。海に挟まれた陸地。虻塚周辺。	36	長者平	地名。史跡指定地。
7	麦の緑	麦畑。畑地。	37	馬屋窪	地名(字名)
8	黄金歎く花	春に咲き誇る眩い黄色い花の意か。菜の花と思われる。	38	八幡太郎	源義家。35に伝説有り。
9	瀧の名所	龍門の滝	39	法康寺	寺院名。浄土真宗大谷派。
10	観音堂	道を隔てて建つ太平寺。千手観音菩薩を祀る。	40	臺新田	地名(字名)
11	慈覚大師開山の堂宇	同上。瀧尾山正眼院太平寺(天台宗)806年創建。	41	三箇寺	特定の寺院名ではなく、地区に寺が3つある。その内、日蓮宗の寺は妙福寺と妙顕寺。
12	堂宇をめぐる老杉	杉木立(群)			
13	トンネル	森田トンネル。烏寶線開業に伴い大正12年建造。			
14	森田にきこゑし発電所	森田発電所。大正11年。	42	太田神社	高根沢町太田の津島神社
15	小埜	地名(字名。小埜駅がある)	43	星の宮	高根沢町花岡の星宮神社
16	荒川の流れ	那珂川水系荒川(一級河川)	44	文挾校	現在の高根沢町立北小学校
17	鐵橋	荒川橋梁。通称「小埜の鉄橋」	45	熟田驛	駅名。現在の仁井田駅。
18	かなたに見ゆる山脈	高原山。那須岳。	46	熟田	44に同じ
			47	高根沢	地名。高根沢町。
19	高瀬の景	高瀬の景色・景観	48	花岡	地名(字名)
20	大里	地名(字名)	49	野州米	栃木県産の米の総称。当時の特産品。
21	鎮守	湯泉神社	50	廣袤幾里灌漑の水路	縦横に伸びる灌漑用水路。市の堀用水など。
22	大金驛	大金驛	51	花岡校	現在の高根沢町立中央小学校
23	化石に名ある河原	森田から小埜にかけての河原。大金クジラ発掘地。	52	地藏寺	
24	十二口	遺跡名。横穴墓群。	53	石末	地名(字名)
25	大和久	地名(字名)	54	寶積寺	地名(字名)
26	小倉	地名(字名)	55	猪湖送電の架空線	猪苗代湖から東京への送電線
27	田の倉校	現在の荒川小学校	56	鉄槽ならべる	54説明の高架線が屹立する様
28	安楽寺	寺院名。真言宗智山派医王山。	57	寶積寺	53に同じ。
29	荒川	16に同じ	58	東北線	烏寶線(現烏山線)が接続する東北本線(宇都宮線)
30	峯の松	県道熊田喜連川線の一本松	59	プラットホーム	寶積寺駅のプラットホーム

59の固有名詞
を抽出!



7.現地調査

(4)調査の方法と記録

17. 鐵橋

- 所在地 栃木県 那須烏山市 滝253付近
- 区分 [1 地名 2 風景 3 景観・景勝地 4 人物 5 建造物 6 その他]
- 分類A 区分1 地名・2 風景・3 景観・景勝地の場合
[参照文献・参考となる資料等:]
- 分類C 区分5 建造物の場合
[1 宗教 2 教育 3 産業 4 交通・通信 5 土木 6 その他]
- 建造年(竣工年) [西暦()年 明治・大正・昭和()年 不明]
* 根拠となる資料[]
- 用途 [鉄道橋]
- 構造形式 [1 木造 2 RC 3 鉄管造 4 煉瓦造 5 石造 6 その他]
[宗教・教育施設の場合 平屋建て・()階建て]
[交通・通信・土木の場合 諸元(長さ: 幅:)]
- 改築・改修 [1 当時のまま 2 移築 3 小規模な改修 4 大規模な改修]
- 文化財等 [1 国指定 2 国登録 3 県指定 4 市町村指定 5 その他]
- 管理者 []
- 設計者 []
- 車窓から [1 見える 2 見えない]
- 調査者所見・特記事項

大正12年竣工。通称「小橋の鉄橋」。長66m。昭和29年に架け替え。
今の鉄橋は二代目であり、詳細な写真が無いので後日撮影したい。

■ 写真(古写真・現況写真)



(出典:「目で見える矢板・さくら・那須烏山の100年」(撮影日・撮影者:)

59の固有名詞毎に調査シートを作成



現地を歩きながら現状確認するとともに、地元住民・役所・教育委員会等への聞き取り調査を行い、情報収集を行った。

7.現地調査

(5) 地域資源の抽出と駅からの直線距離

番号	曲番	詠まれた名所	距離	最寄駅
			(km)	
1	3	愛宕の山	0.675	烏山駅
2	3	峡		
3	4	麦の緑		
4	4	黄金欺く花		滝駅
5	5	瀧の名所	0.4	
6	5	観音堂		
7	6	慈覚大師の開山堂宇	0.275	滝駅
8	6	(堂宇をめぐる)老杉		
9	7	トンネル	0.525	
10	8	森田にきこゑし発電所	0.7	小埜駅
11	8	荒川の流れ	1.075	
12	8	鉄橋	0.2	
13	9	かなたに見ゆる山脈 (高原山・那須岳)	42.09 52.89	大金駅
14	10	鎮守	0.473	
15	11	化石に名のある河原	1.075	
16	11	十二口	1.525	大金駅
17	12	田の倉校	0.25	
18	12	安楽寺	0.725	
19	12	峯の松	4.075	鴻野山駅
20	13	こしの峯	4.075	
21	14	長者ヶ平	2.4	
22	14	八幡太郎		鴻野山駅
23	15	法康寺	0.4	
24	15	三箇寺	2.325 2.625	
25	16	太田神社	3.6	仁井田駅
26	16	星の宮	0.2	下野花岡駅
27	16	文挾校	0.6	仁井田駅
28	17	野州米	0.4	
29	18	廣袤幾里灌漑の水路	0.02	下野花岡駅
30	19	花岡校	0.275	
31	19	地藏寺	0.2	
32	19	猪湖送電の架空線		
33	19	鉄櫓ならべる	1.4	

59の固有名詞から
33の地域資源を抽出！

地域資源を5分野に区分

- ①自然・自然景観……………13(39.4%)
- ②歴史・歴史的景観……………12(36.4%)
- ③建造物(教育)……………3(9.1%)
- ④建造物(産業)……………1(3%)
- ⑤建造物(交通・通信・土木)……4(12.1%)

①自然・自然景観 ②歴史・歴史的景観

全体の約76%！

8.烏寶線鉄道唱歌の解明

(1)「読み下し文」の作成

	歌 詞 原 文	読み下した歌詞の内容
4	麦の緑のそが中に 黄金欺く花ありて 言はづとかたる春の香に 思はず胸の躍るなり	麦畑が広がる畑地の中に、黄金のように輝く菜の花の群れが広がっている。その芳香に思わず胸も躍るようだ。
5	瀑音高く緑陰に 響くはこれぞ名にし負ふ 瀧の名所と相待ちて 観音堂のあるところ	緑陰に高く響き渡る荒々しい瀑音は、名所として名高い龍門の瀧。道を隔てた太平寺は、千手観音菩薩を祀る。
7	汽笛一聲トンネルに 我等が汽車は入りにけり 此處難工の一ところ 延長實に三町餘	汽車は汽笛とともに森田トンネルに入っていく。このトンネルの建設は難工事として知られ、その延長は350m余り。
8	森田に聞こゑし発電所 小埜をすぎて荒川の 流れにわたす鐵橋に かゝれば音のかまびすし	有名な森田発電所を眺め、小埜駅を過ぎるとまもなく荒川に架かる荒川橋梁。鉄橋を渡る車輪の音も高く響く。
12	田の倉校や安樂寺 窓下に青き荒川を 再び右にながめつゝ すぐれば変る峯の松	荒川の清流を再び右に眺めながら、田野倉校(現荒川小学校)や安樂寺を過ぎると、喜連川町界の一本松がある。
18	廣袤幾里灌漑の 水路蜘蛛手に分れつゝ さすがは廣き水田に 耕すものはこゝかしこ	蜘蛛が糸を張り廻らしたように、縦横に灌漑用水路が広がる。広い水田には、そこかしこに農夫の姿が見える。
19	花岡校や地蔵寺を すぎて石末寶積寺 猪湖送電の架空線 鐵槽ならべる一奇觀	花岡校(現中央小学校)や地蔵寺を過ぎ石末や寶積寺。猪苗代湖からの送電線槽が屹立する様は稀に見る景観。



(唱歌5番) 瀧の名所



(唱歌7番)
汽笛一聲トンネルに



(唱歌12番) 安樂寺

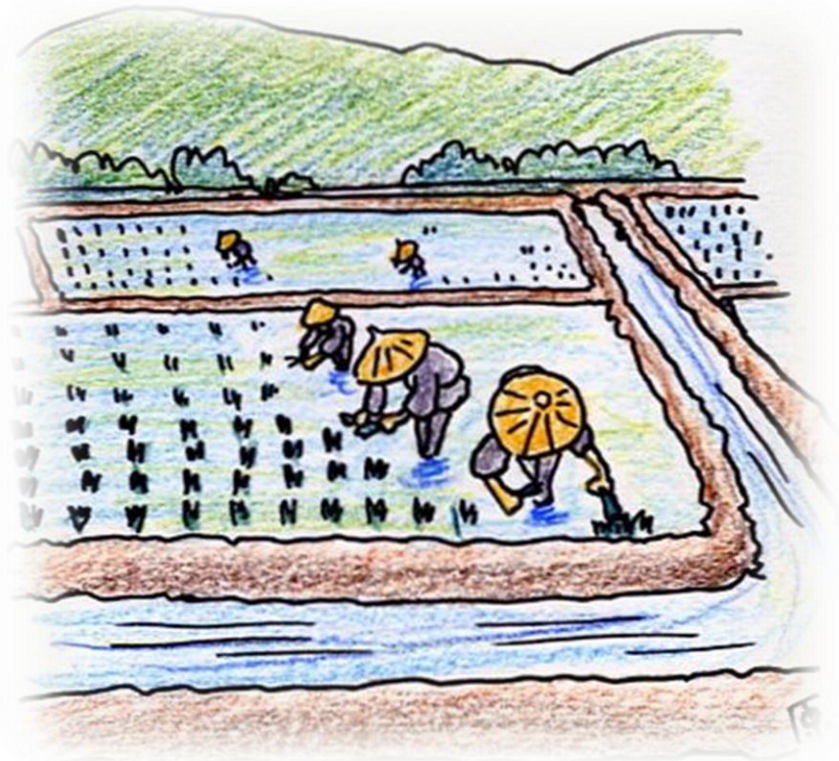
8. 烏寶線鉄道唱歌の解明

(2) 風光復元スケッチ①



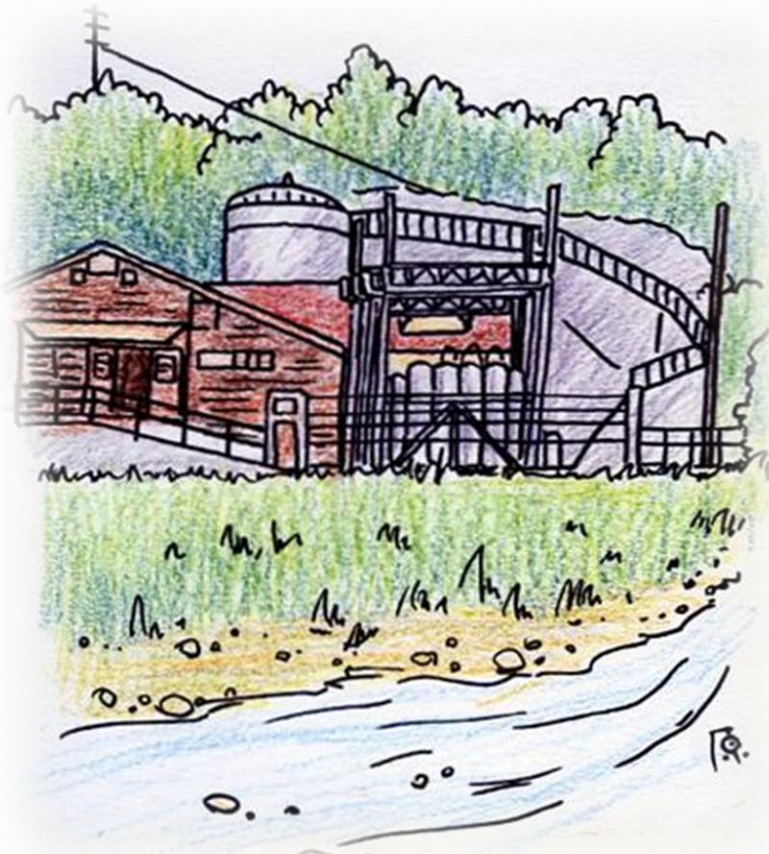
唱歌4番で詠われた“麦の緑と黄金
欺く花”の光景の復元。
“小金欺く花”とは、菜の花の意か。

唱歌18番で詠われた“廣袤幾里灌漑の
水路 …… 広き水田に 耕すものはここ
かしこ”の光景の復元。



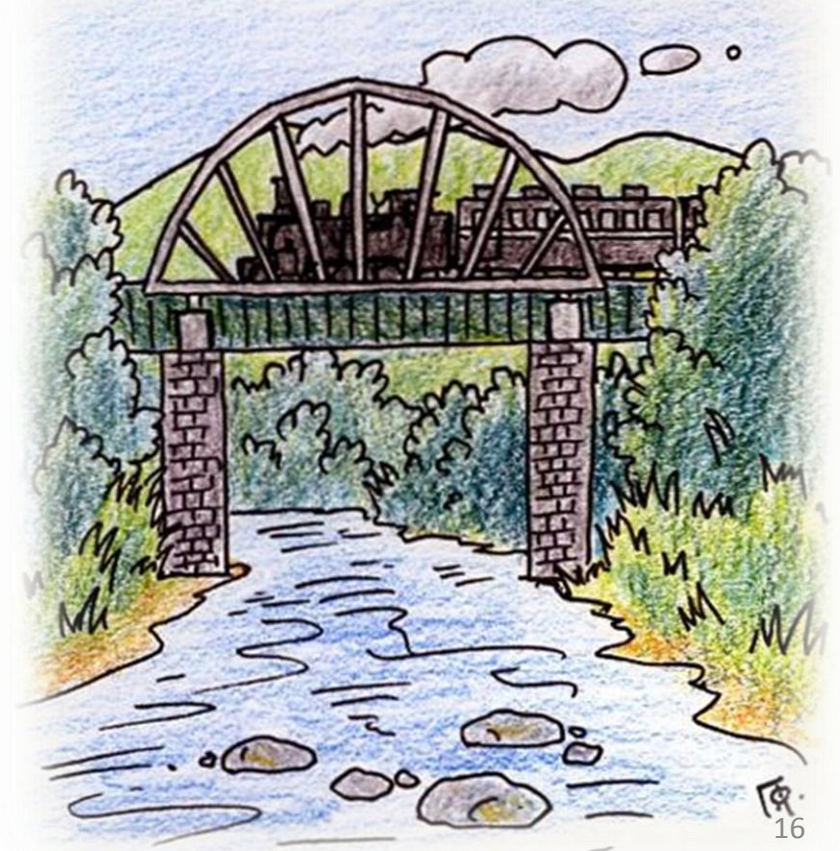
8.烏寶線鉄道唱歌の解明

(3) 風光復元スケッチ②



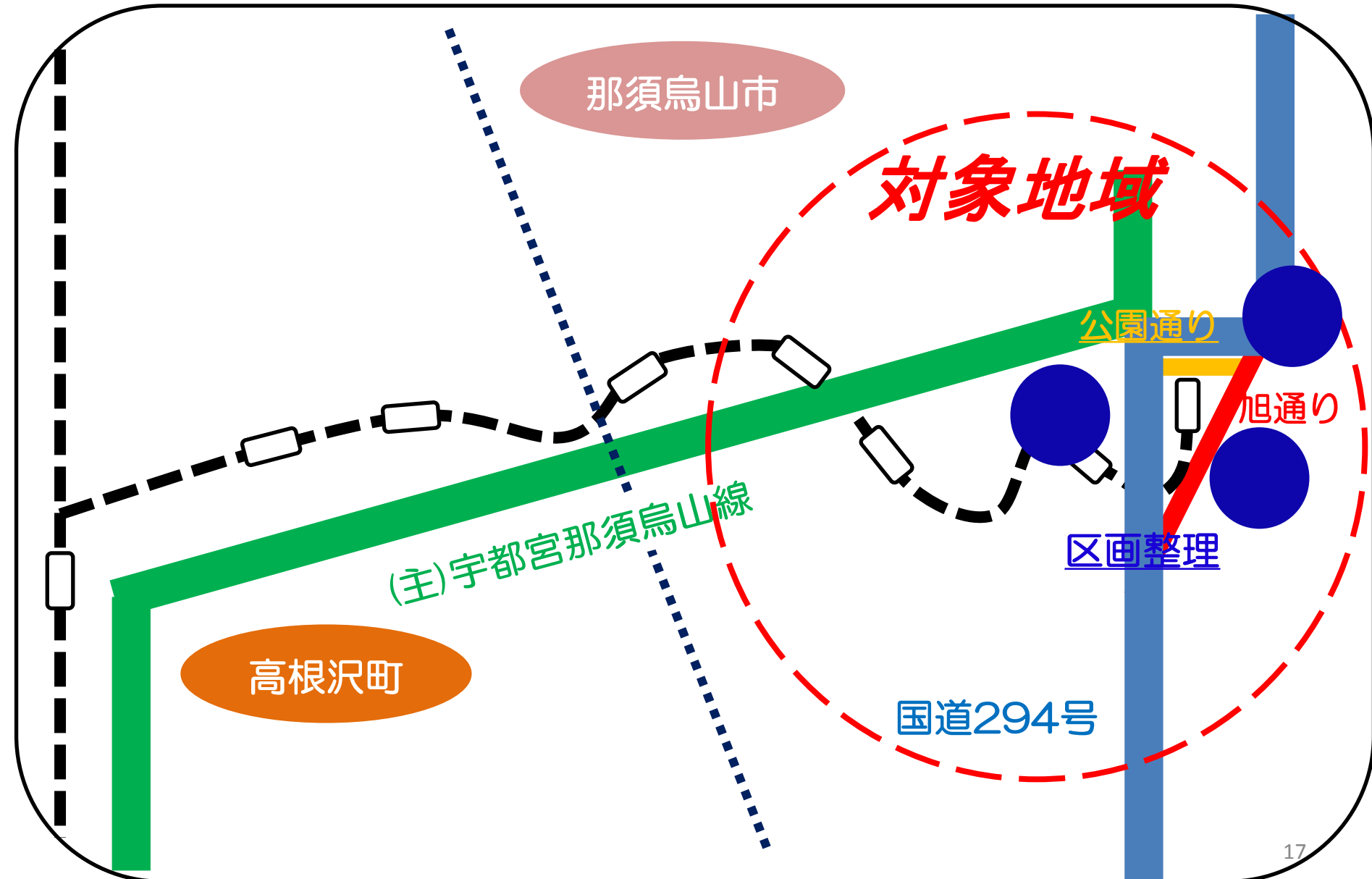
唱歌8番で詠われた“森田に聞こえし発電所”
の操業当初の光景の復元。

唱歌8番で詠われた、“小埜をすぎて荒川の
流れにわたす鉄橋に……”の光景の復元。



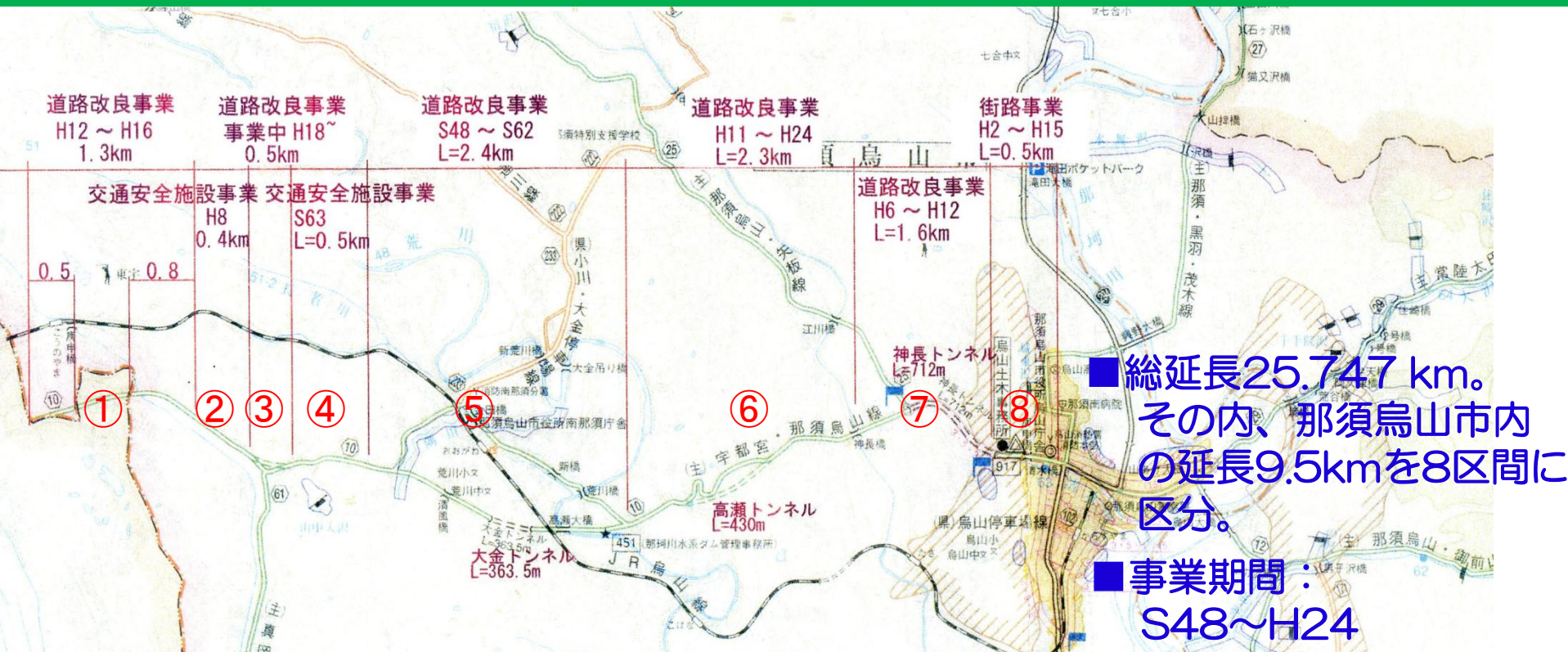
9.近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

(1)市街地整備事業①概念図



9.近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

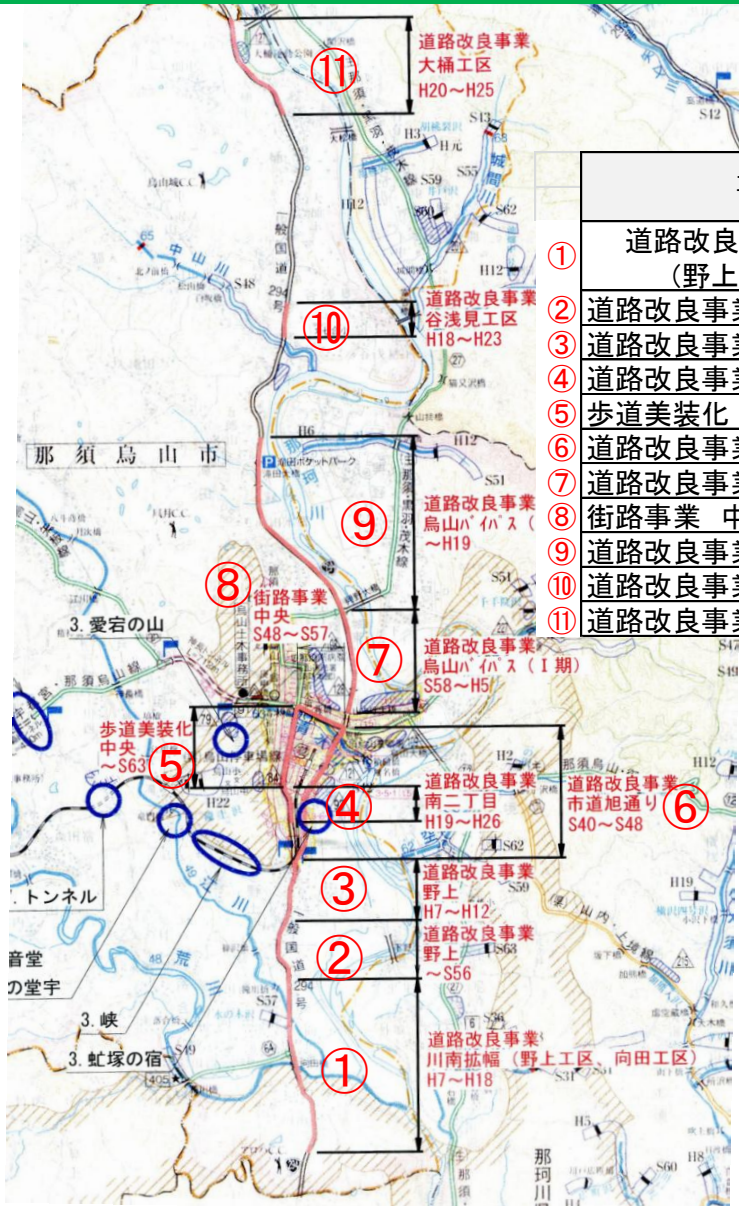
(1)市街地整備事業②主要地方道宇都宮那須烏山線



事業名	事業期間	区 間		延長 (km)
		起 点	終 点	
① 道路改良事業	H12～H16	鴻野山字荻之平5	小倉坂下1076-1	1.3
② 交通安全施設事業	H8	鴻野山165-1	福岡534	0.4
③ 道路改良事業(事業中)	H18～	福岡字三百沢652-6	田野倉字休場787-4	0.5
④ 交通安全施設事業	S63	田野倉756	田野倉792-1	0.5
⑤ 道路改良事業	S48～S62	田野倉774-1	高瀬492-1	2.4
⑥ 道路改良事業	H11～H24	高瀬字上川原611-1	神長字関下883-1	2.3
⑦ 道路改良事業	H6～H12	神長字関下883-1	中央一丁目字釜ヶ入774-2	1.6
⑧ 街路事業	H2～H15	中央一丁目字釜ヶ入774-2	中央一丁目字仲町351	0.5

9.近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

(1) 市街地整備状況③国道294号



事業名	事業期間	区 間		延長(km)
		起 点	終 点	
① 道路改良事業 川南拡幅 (野上、向田工区)	H7~H18	向田370-2	野上449-1	1.8
② 道路改良事業 野上	~S56	野上431-2	野上642-2	0.8
③ 道路改良事業 野上	H7~H12	野上703	野上1137	0.7
④ 道路改良事業 南二丁目	H19~H26	野上1139-4	南二丁目3045-2	0.5
⑤ 歩道美化化 中央	~S63	南一丁目12-10	中央一丁目11-17	0.5
⑥ 道路改良事業 市道旭通り	S40~S48	中央二丁目8-14	野上1197	1.3
⑦ 道路改良事業 烏山BP(Ⅰ期)	S58~H5	旭二丁目1449-15	竜田302	1.2
⑧ 街路事業 中央	S48~S57	中央二丁目1-25	中央二丁目8-24	
⑨ 道路改良事業 烏山BP(Ⅱ期)	~H19	竜田301	竜田2013	2.1
⑩ 道路改良事業 谷浅見工区	H18~H23	谷浅見862-1	谷浅見1062-2	0.6
⑪ 道路改良事業 大桶工区	H20~H25	大桶上町658-1	大桶字粕五郎内2007-7	1

- 総延長:254.1km
その内、那須烏井山市内10.5kmを
10区間に区分。
- 事業期間：昭和40年～平成25年

9.近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

(1) 市街地整備状況④土地区画整理事業等



- 旧烏山町が行った土地区画整理事業1件。12haが整備された。
- 2件の宅地造成事業。旧烏山町と民間業者でそれぞれ行われている。

…※

■ 唱歌4番に詠われた“麦の緑のそが中に、黄金欺く花ありて…”の光景も、このような開発等により失われてしまったと考られる。

事業名	事業年	事業主体	面積(ha)	公共用地(ha)	戸数	
野上台団地(宅地分譲)	S40年代	旧烏山町	不明	—	約70	
泉土地区画整理事業	S48~S50	旧烏山町	12	道路(国)	0.3	35
				道路(町)	1.9	
				公園	0.4	
計	2.6	20				
高峰パークタウン	h10~h14	民間	18	—	273	

9.近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

(1) 市街地整備状況に伴う地積の推移⑤

		S15	S30	S35	S45	S55	H2	H12	H22
那須烏山市	総地籍	942.10	124.63	120.70	172.68	172.68	172.68	172.68	172.68
	田	121.20	18.53	18.09	19.92	22.33	27.01	26.95	15.43
		13	14	15	12	13	15	15	8
	畑	153.90	26.29	25.79	25.06	21.17	16.95	16.61	9.59
16		21	21	14	12	10	9.6	5.5	
宅地	20.69	4.42	4.42	4.60	6.10	7.89	8.97	8.97	
	2	3.5	3.6	2.6	3.5	5.5	5.1	5.1	
高根沢町	総地積	404.60	62.06	60.36	71.09	71.09	71.09	71.09	71.09
	田	108.70	36.07	35.34	37.10	39.09	38.16	36.83	36.54
		29	58	59	52	55	54	52	51
	畑	50.14	10.65	10.05	8.58	5.31	4.63	4.14	4.00
12		17	17	12	7	7	6	5	
宅地	11.24	2.94	2.95	3.59	4.74	6.13	7.21	7.81	
	3	4.7	5	5	7	9	10	11	

注1: 上段は面積(k㎡)、下段は総地積に対する割合(%)

注2: 昭和15年は郡全体の数値を示す。那須烏山市は那須郡、高根沢町は塩谷郡。

昭和30年の那須烏山市・高根沢町の総地籍に占める宅地の割合は
 那須烏山市4.42k㎡(3.5%)・高根沢町2.94k㎡(4.7%)である。

平成22年には、那須烏山市8.97k㎡(5.1%)・高根沢町7.81k㎡(11%)に増加
**宅地の割合が増大する一方、
 農地の割合が大きく減少している！**

9.近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

(2) 小学校と児童数の推移

		S5 ^{注1}	S10	S25	S30	S35	S45	S55	h2	h12	h22	h26
那須烏山市	人口	175,953	35,702	45,220	42,437	39,045	33,539	33,562	33,699	32,785	29,420	28,541
	小学校数	66(1) 【1】 ^{注2}			24(1)	23(1)	21	10	9	9	5	5
	児童数	31,415 【68】			6549	6982	3722	3079	2793	2029	1428	
	男児	16,212 【40】			3254	3507	1883	1568	1461	991	749	
女児	15,203 【28】			3295	3475	1839	1511	1332	1038	679		
高根沢町	人口	91,023	22,985	24,587	23,773	21,472	20,661	22,765	26,328	29,780	30,614	30,123
	小学校数	19(2)			11(1)	10(1)	10	5	5	6	6	6
	児童数	17,011			3455	3586	2114	2215	2119	2037	1680	
	男児	8,743			1740	1878	1117	1149	1093	1035	839	
女児	8,268			1715	1708	997	1066	1026	1002	841		

注1: 昭和5年は郡全体の総数を示す。那須烏山市は那須郡、高根沢町は塩谷郡。

注2: ()内は分校、【 】内は私立校を示す。



(昭和30年頃の境小学校。
「写真で見る烏山町の100年史」から抜粋)



(昭和30年頃の大木須小学校。
「写真で見る烏山町の100年史」から抜粋)

人口減少に伴う過疎化の進行が顕著に表れている! 22

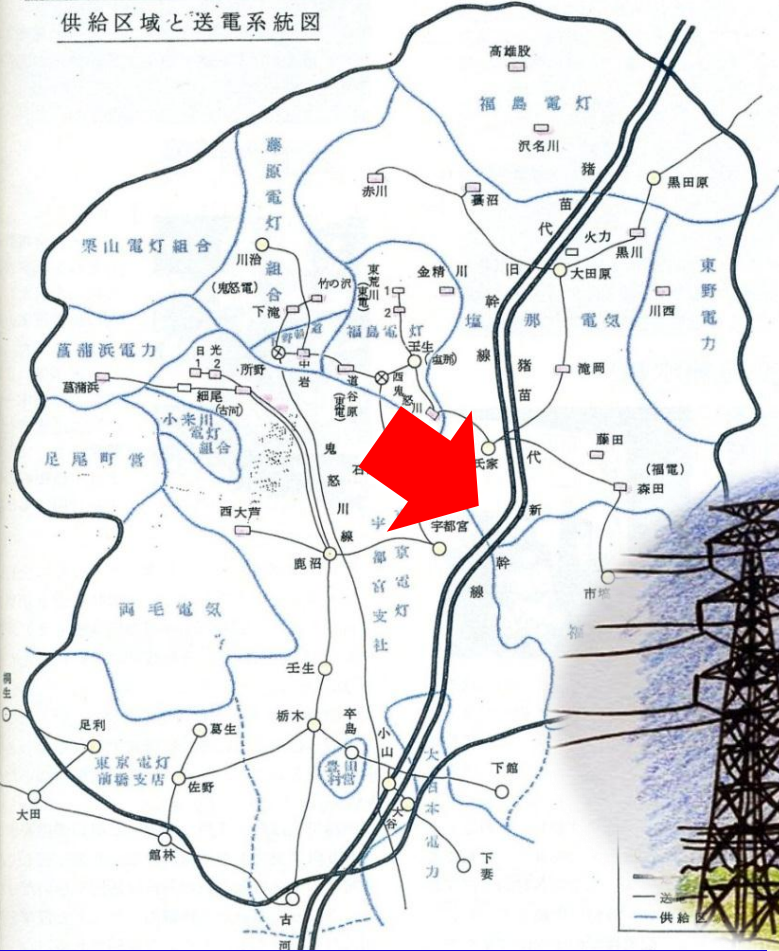
9.近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

(3)電力事業についての分析②

昭和10年当時の各社供給区域と送電系統図

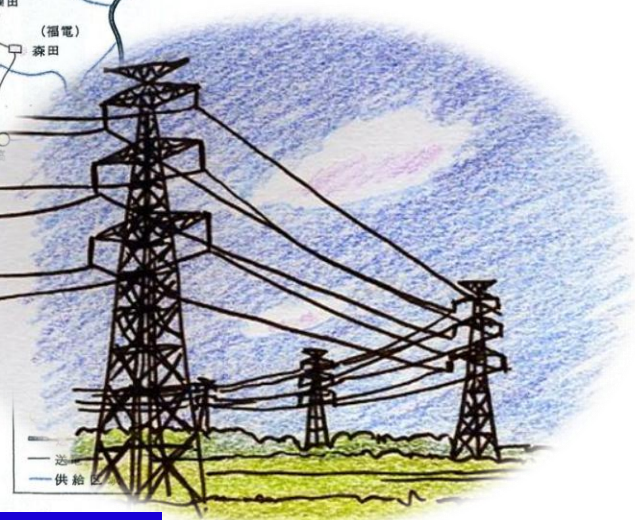
昭和10年当時の各電気事業者

供給区域と送電系統図



- 唱歌19番で“猪湖送電の架空線・・・”と詠われた猪苗代旧幹線・新幹線。それぞれ、大正3年・大正15年に建設された。
- 東京圏への電力供給として建設され、猪苗代湖から並列して延びる送電線である。

♪ 花岡校や地藏寺を すぎて石末寶積寺
猪湖送電の架空線 鐵櫓ならべる一奇觀

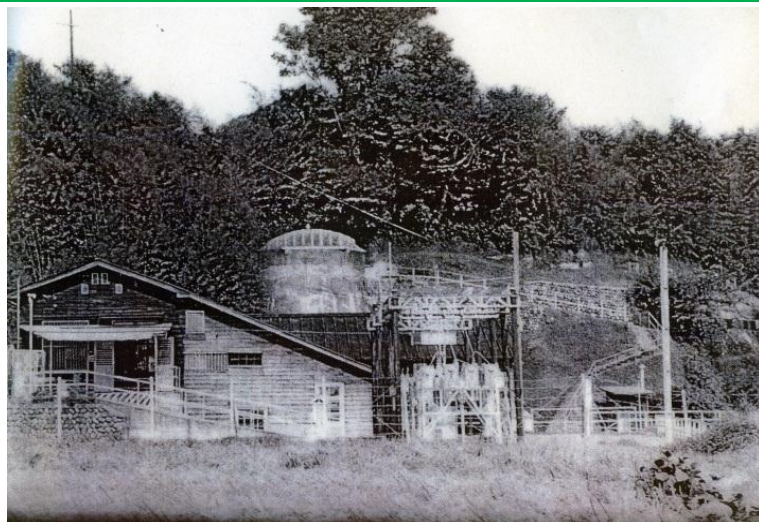


高層建造物が見慣れた現在とは異なり、唱歌が作られた当時において“奇觀”という表現の中に、ある種の自慢や誇りとも言える感情の昂ぶりを見る事ができる。

(東京電力栃木支社「とちぎの電力」から抜粋)

9.近代後期以降における沿線地域の変容過程に関する分析

(3) 電力事業について①発電所の創業とその後の変遷



創業当初の森田発電所全景(写真上)と現在の建物

森田発電所の創業と変遷

- 大正7年:荒川電気(株)設立
- 大正11年:野州電気(株)に統合
認可出力230kwで営業運転を開始。
- 大正14年:福島電灯(株)に合併
屋内変電設備を増設。烏山・馬頭方面に電力供給。
- 昭和17年:東北配電(株)に統合
以後、電力需要の高まりに応じて設備増強を重ねる。
- 昭和26年:東京電力(株)に統合
- 昭和46年:小水力発電所の見直しにより廃止。
- 昭和52年:敷地・建物が旧南那須町所有となる
- 平成14年:地元実業家が購入
以後、平成24年までレストランとして営業。
- 平成24年:レストラン閉鎖

■当該地域への電力を供給し、地域振興を目的とした電力事業としてこの森田発電所および藤田発電所が建設されたが、現在は両発電所ともに廃止。

■建造から現在までの間、時代の趨勢の要請に応じて用途は数次に渡り変遷したが、外観はさほど変わらず建造された近代後期の風情を今に伝えている。

10.まとめ

- ① 今回の調査をとおして、地域の魅力となる地域資源を抽出・把握した。即ち、自然景観の豊かさと歴史に根差した物語性が、地域の大きな魅力になり得る。
- ② 『烏寶線鉄道唱歌』に詠われた個々の地域資源までの距離は、最寄の駅から歩行距離圏にあることが確認できた。
- ③ 地域資源は地域を成り立たせ支えてきたものであり、近代後期以降の地域の趨勢に関わる今回の分析成果は、ヒストリーツーリズムの検討資料に成り得る。

今後は、本稿の成果を踏まえ、地域活性化に向けた具体的な検討を行う。

ご清聴ありがとうございました。
ございました。

